

レセプト情報・特定健診等情報データベースのデータ件数 (平成26年8月現在)

●レセプト (21年4月～26年5月診療分)

格納件数 約 8 0 億 5, 2 0 0 万件

(内訳) 21年度 約 12 億 1, 7 0 0 万件
22年度 約 15 億 1, 1 0 0 万件
23年度 約 16 億 1, 9 0 0 万件
24年度 約 16 億 8, 1 0 0 万件
25年度 約 17 億 2, 8 0 0 万件
26年度 約 2 億 9, 6 0 0 万件

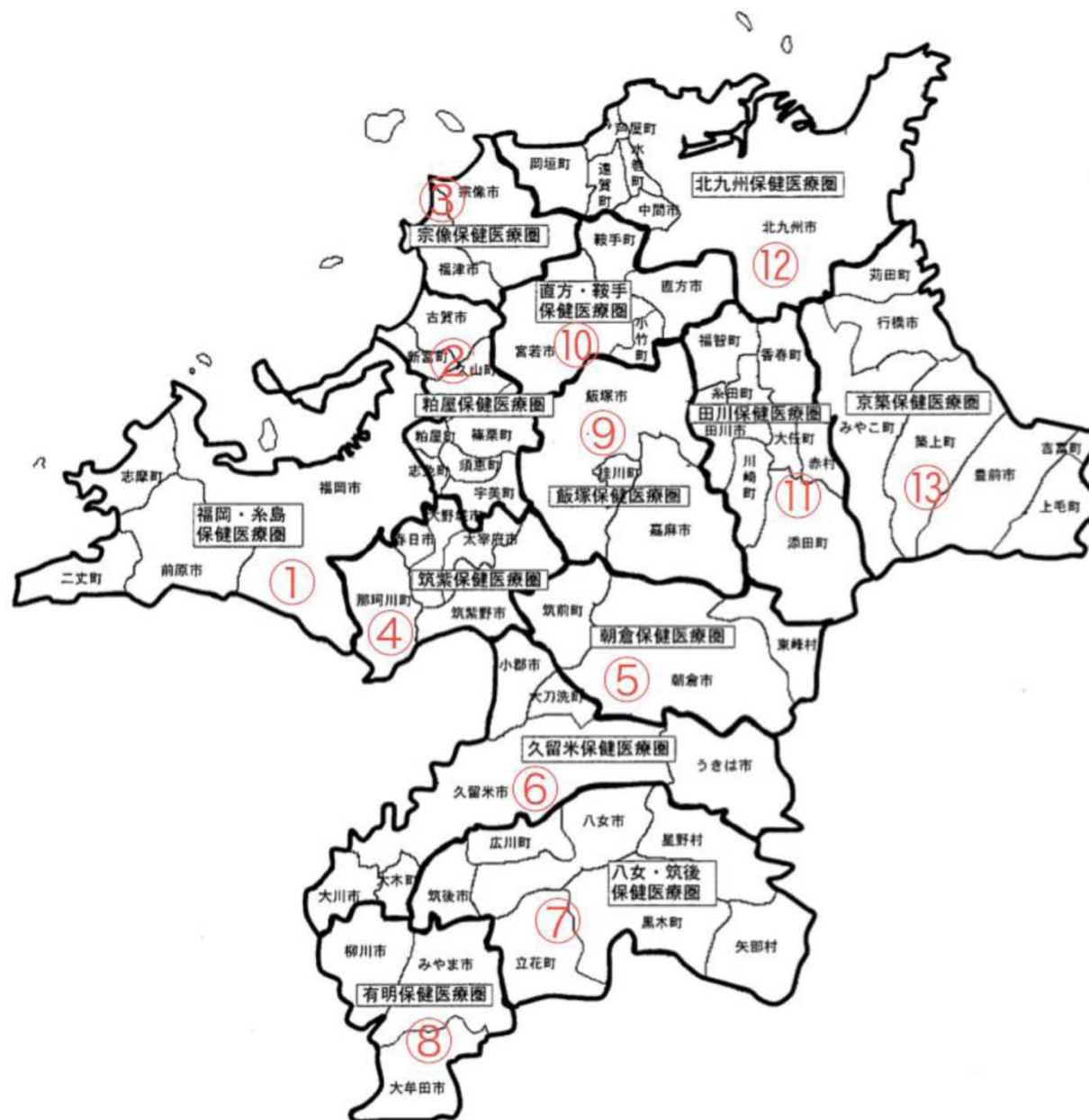
電子化率
調剤: 99.9%
病院: 99.8%
診療所: 96.8%
歯科: 69.5%

●特定健診・特定保健指導 (20年度～24年度分)

格納件数 約 1 億 2, 0 0 0 万件

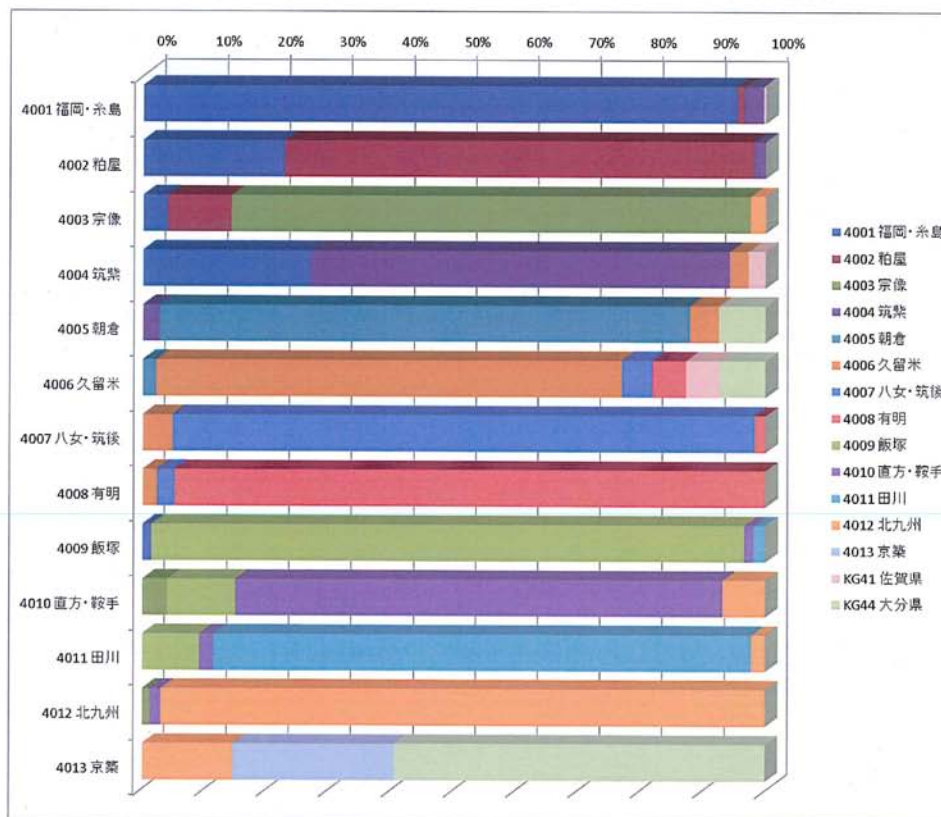
(内訳)	特定健診	約 1 億 1, 0 0 0 万件	特定保健指導	約 3 1 5 万件
・ 20年度	約 2, 0 0 0 万件	・ 20年度	約 3 9 万件	
・ 21年度	約 2, 2 0 0 万件	・ 21年度	約 5 8 万件	
・ 22年度	約 2, 3 0 0 万件	・ 22年度	約 6 1 万件	
・ 23年度	約 2, 4 0 0 万件	・ 23年度	約 7 2 万件	
・ 24年度	約 2, 5 0 0 万件	・ 24年度	約 8 4 万件	

出典: 平成25年度厚生労働科学研究補助金 (厚生労働科学特別研究事業)・今後の医療需要を踏まえた医療機能の分化・連携を促すための地域医療ビジョン策定に向けて把握すべきデータやその活用方法に関する研究 (H25-特別-指定-007) (研究代表者: 松田晋哉)



※市町村合併により地図中の前原市・志摩町・二丈町は現在の糸島市に含まれる

福岡県における救急医療の自己完結率・二次救急 (平成24年度NDBデータ：入院・外来合計)



出典：平成25年度厚生労働科学研究補助金（厚生労働科学特別研究事業）・今後の医療需要を踏まえた医療機能の分化・連携を促すための地域医療ビジョン策定に向けて把握すべきデータやその活用方法に関する研究（H25-特別-指定-007）（研究代表者：松田晋哉）

医療圏別にみた平均搬送時間(分)

(平成23年度 消防庁データ: 全体)

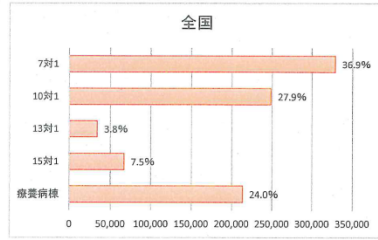
二次医療圏	搬送者数	覚知から現場到着	現場到着から収容	覚知から収容
	207,498	7.7	21.0	28.2
4001福岡・糸島	60,331	7.2	19.9	26.8
4002粕屋	9,402	8.0	21.6	29.2
4003宗像	5,012	8.1	21.8	29.3
4004筑紫	14,564	7.5	20.5	27.7
4005朝倉	3,710	9.2	24.3	31.8
4006久留米	15,898	7.5	17.9	25.1
4007八女・筑後	5,404	7.0	21.2	27.1
4008有明	9,274	7.3	21.9	28.5
4009飯塚	8,690	8.4	21.6	29.6
4010直方・鞍手	5,570	7.4	25.1	31.7
4011田川	7,722	8.9	25.9	32.8
4012北九州	53,655	8.0	21.3	28.9
4013京築	8,266	7.7	23.0	29.6

出典: 平成25年度厚生労働科学研究補助金(厚生労働科学特別研究事業)・今後の医療需要を踏まえた医療機能の分化・連携を促すための地域医療ビジョン策定に向けて把握すべきデータやその活用方法に関する研究(H25-特別-指定-007)(研究代表者: 松田晋哉)

福岡県内病床数調べ(H26.3.1時点)

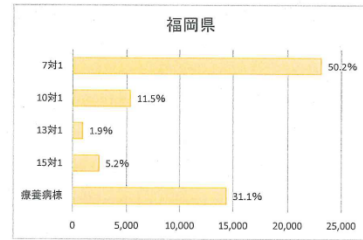
①全国の病床数(厚生労働省資料より・平成22年度)

全国	療養病床	15対1	13対1	10対1	7対1
(891,076)	213,462	66,822	33,668	248,606	328,518



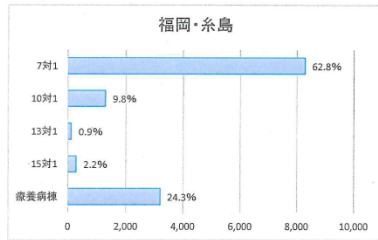
②福岡県の病床数(平成26年3月1日時点)

福岡県	療養病床	15対1	13対1	10対1	7対1
(46,099)	14,354	2,416	890	5,315	23,124



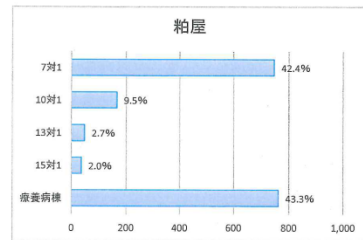
③福岡・糸島医療圏の病床数(平成26年3月1日時点)

福岡・糸島	療養病床	15対1	13対1	10対1	7対1
(13,232)	3,217	287	123	1,299	8,306



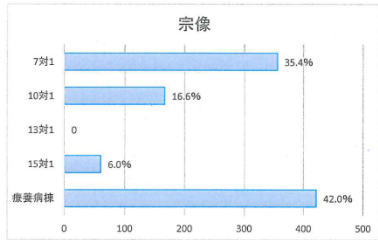
④粕屋医療圏の病床数(平成26年3月1日時点)

粕屋	療養病床	15対1	13対1	10対1	7対1
(1,760)	762	36	48	167	747



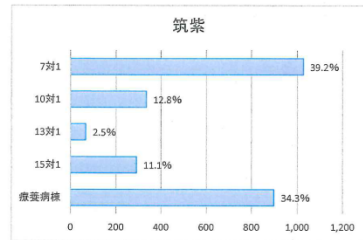
⑤宗像医療圏の病床数(平成26年3月1日時点)

宗像	療養病床	15対1	13対1	10対1	7対1
(1,005)	422	60	0	167	356



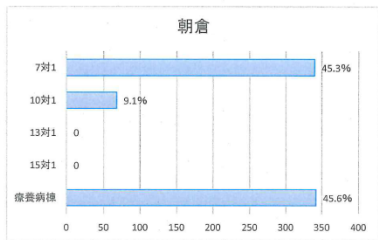
⑥筑紫医療圏の病床数(平成26年3月1日時点)

筑紫	療養病床	15対1	13対1	10対1	7対1
(2,617)	898	291	66	335	1,027



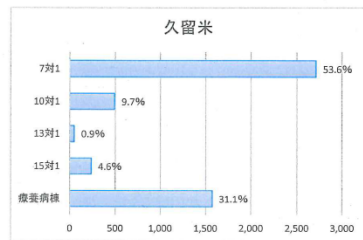
⑦朝倉医療圏の病床数(平成26年3月1日時点)

朝倉	療養病床	15対1	13対1	10対1	7対1
(750)	342	0	0	68	340



⑧久留米医療圏の病床数(平成26年3月1日時点)

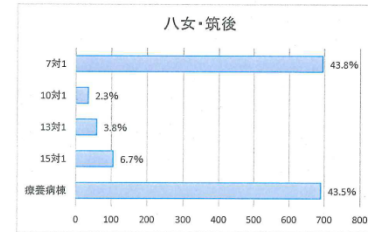
久留米	療養病床	15対1	13対1	10対1	7対1
(5,063)	1,574	234	48	492	2,715



福岡県内病床数調べ(H26.3.1時点)

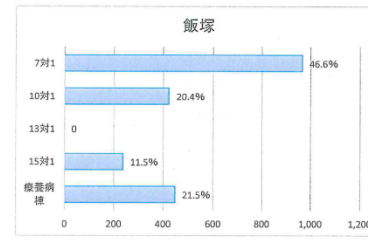
⑨八女・筑後医療圏の病床数(平成26年3月1日時点)

八女・筑後	療養病床	15対1	13対1	10対1	7対1
(1,589)	691	106	60	36	696



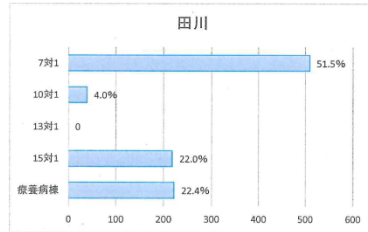
⑩飯塚医療圏の病床数(平成26年3月1日時点)

飯塚	療養病床	15対1	13対1	10対1	7対1
(2,076)	447	238	0	423	968



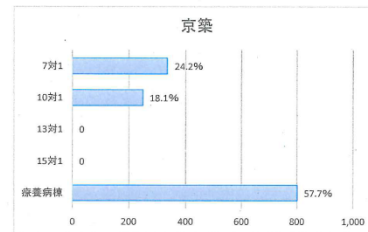
⑪田川医療圏の病床数(平成26年3月1日時点)

田川	療養病床	15対1	13対1	10対1	7対1
(990)	222	218	0	40	510



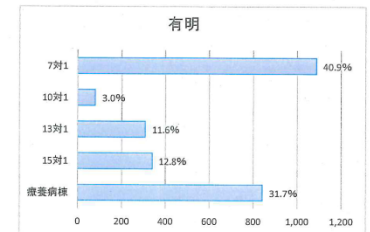
⑫京築医療圏の病床数(平成26年3月1日時点)

京築	療養病床	15対1	13対1	10対1	7対1
(1,390)	802	0	0	251	337



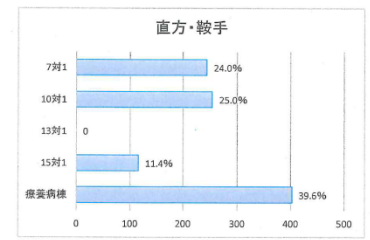
⑬有明医療圏の病床数(平成26年3月1日時点)

有明	療養病床	15対1	13対1	10対1	7対1
(2,661)	843	340	308	81	1,089



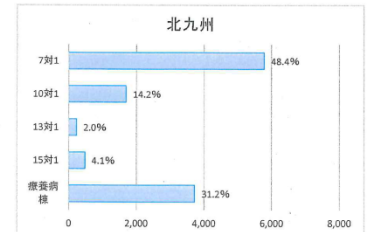
⑭直方・鞍手医療圏の病床数(平成26年3月1日時点)

直方・鞍手	療養病床	15対1	13対1	10対1	7対1
(1,017)	403	116	0	254	244

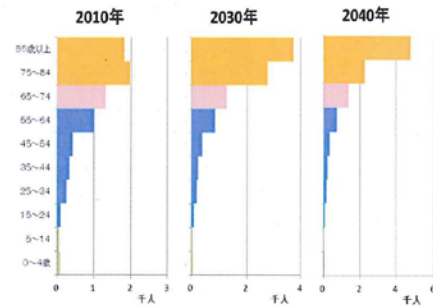


⑮北九州医療圏の病床数(平成26年3月1日時点)

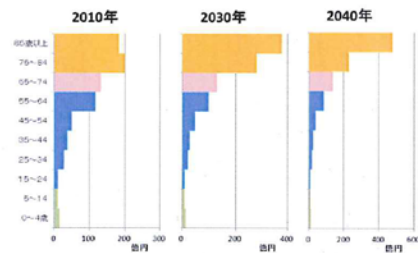
北九州	療養病床	15対1	13対1	10対1	7対1
(11,949)	3,731	490	237	1,702	5,789



久留米の患者数、医療費、必要病床数の推計



図VI-1 患者数の推計（現在の年齢階級別罹患率が維持されると仮定）



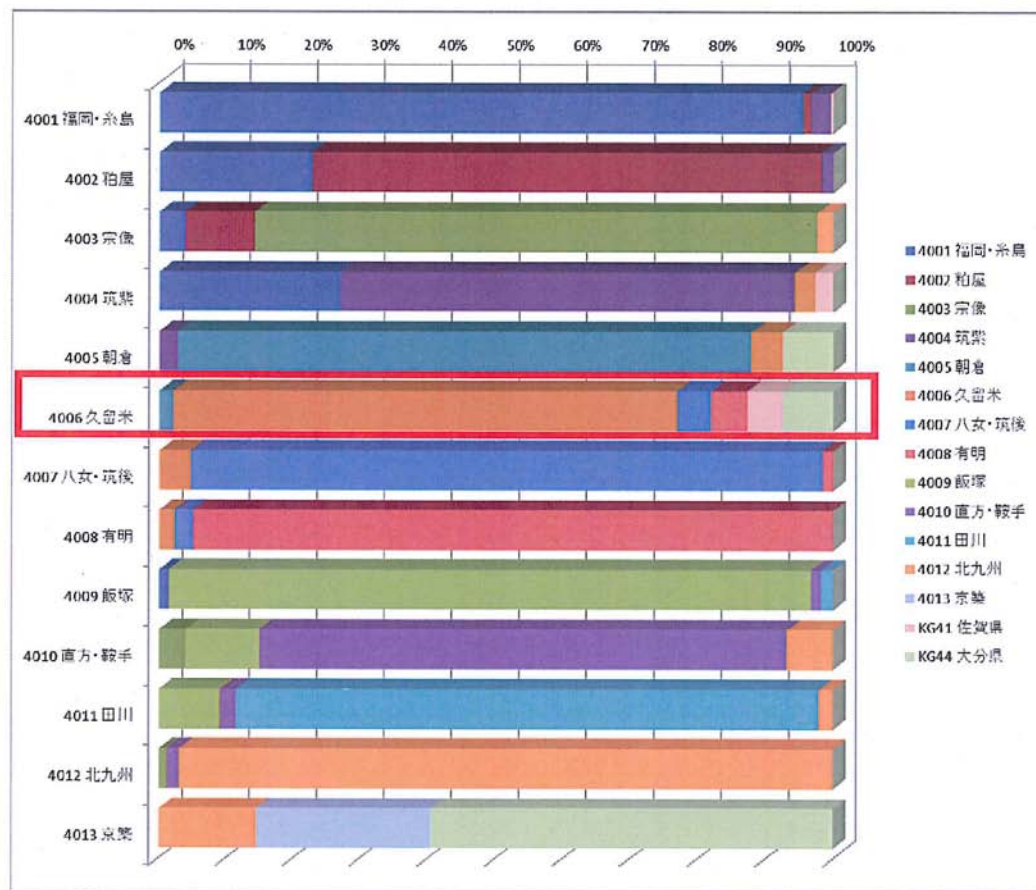
図VI-2 医療費の推計（現在の年齢階級別罹患率、医療費が維持されると仮定）

	患者数	病床稼働率			医療費 (億円)
		95%	90%	85%	
2010年	7,340	7,727	8,156	8,636	784
2030年	9,588	10,093	10,654	11,280	1,002
2040年	9,903	10,424	11,003	11,650	1,030

表VI-1 患者数、必要病床数、医療費推計
（現在の年齢階級別の傾向が維持と仮定）

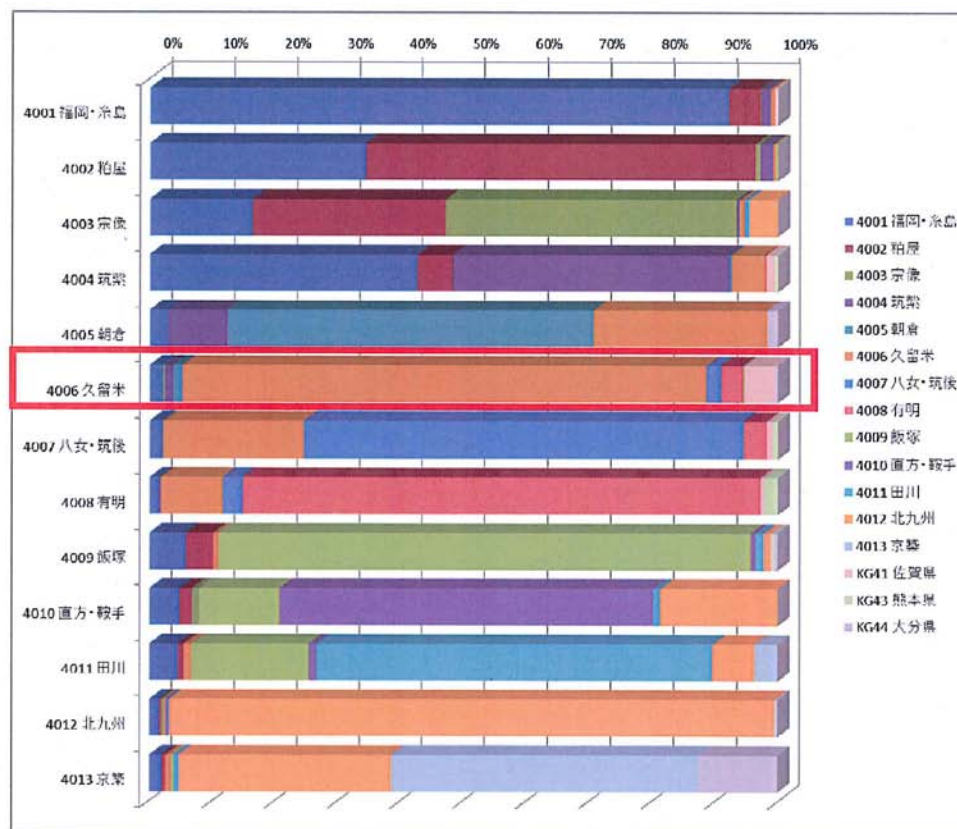
《＊》流入が想定されるため、上記の値は過小評価の可能性あり

久留米の患者の流出入の現状



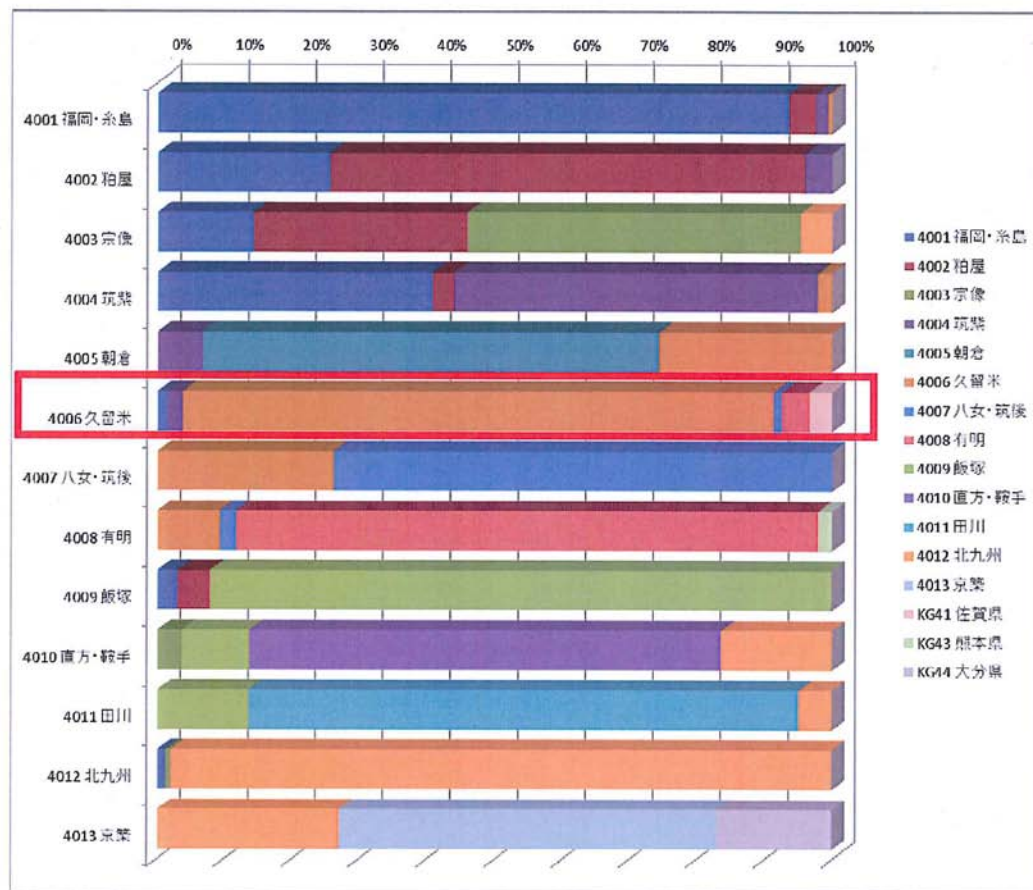
図VI-3 NDB 救急医療の自己完結率

70%強の救急搬送の患者が自地域の医療施設で入院している。残り数%が福島・糸島医療圏、5%ずつ八女・筑後医療圏、有明医療圏、佐賀県、10%が大分県へ入院している。また、八女・筑後の数%、有明医療圏の数%の救急搬送の患者を受け入れており、流入がメインとなる地域と言えるだろう。



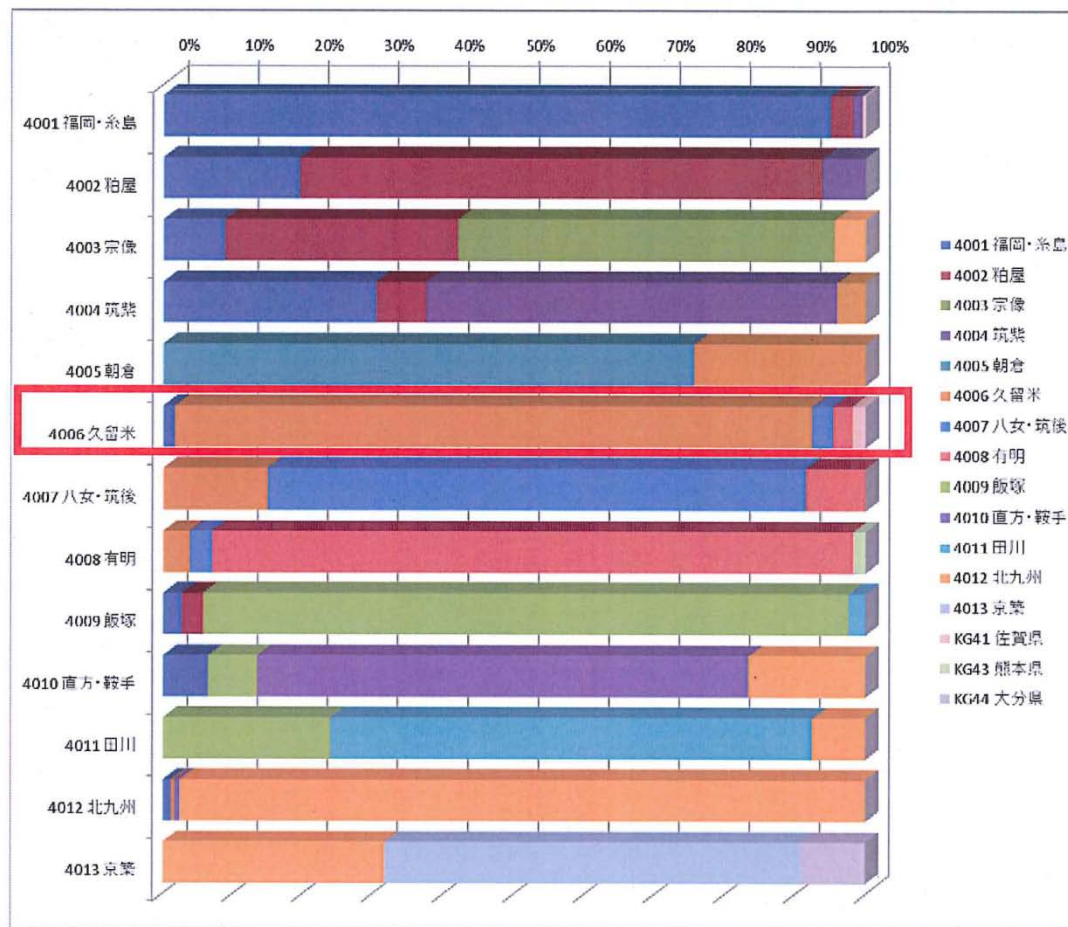
図VI-4 NDB 悪性腫瘍入院の自己完結率

約 85%の悪性腫瘍患者が自地域の医療施設で入院している。残り数%が福岡・糸島医療圏、筑紫医療圏、八女・筑後医療圏、有明医療圏、佐賀県へ入院している。また、筑紫医療圏の数%、あさくらい医療圏の約 25%、八女・筑後医療圏の 20%、有明医療圏の 10%弱の悪性腫瘍の患者を受け入れており、流入がメインとなる地域と言えるだろう。



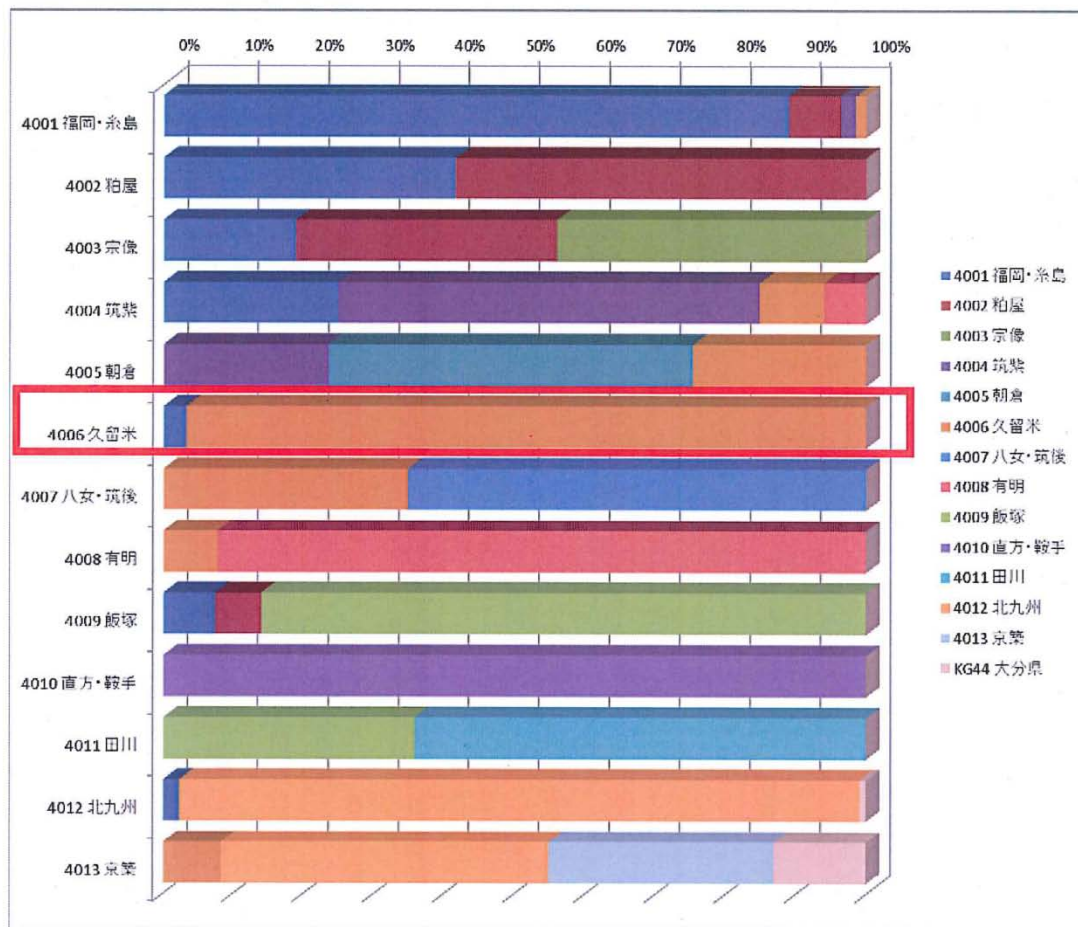
図VI-5 NDB 胃がん入院の自己完結率

約 90%の胃がん患者が自地域の医療施設で入院している。残りは数%が福岡・糸島医療圏、筑紫医療圏、八女・筑後医療圏、有明医療圏、佐賀県へ入院している。また、筑紫医療圏の数%、朝倉医療圏の 30%、八女・筑後医療圏の 20%強、有明医療圏の 10%弱の胃がんの患者を受け入れており、流入がメインの地域と言える。



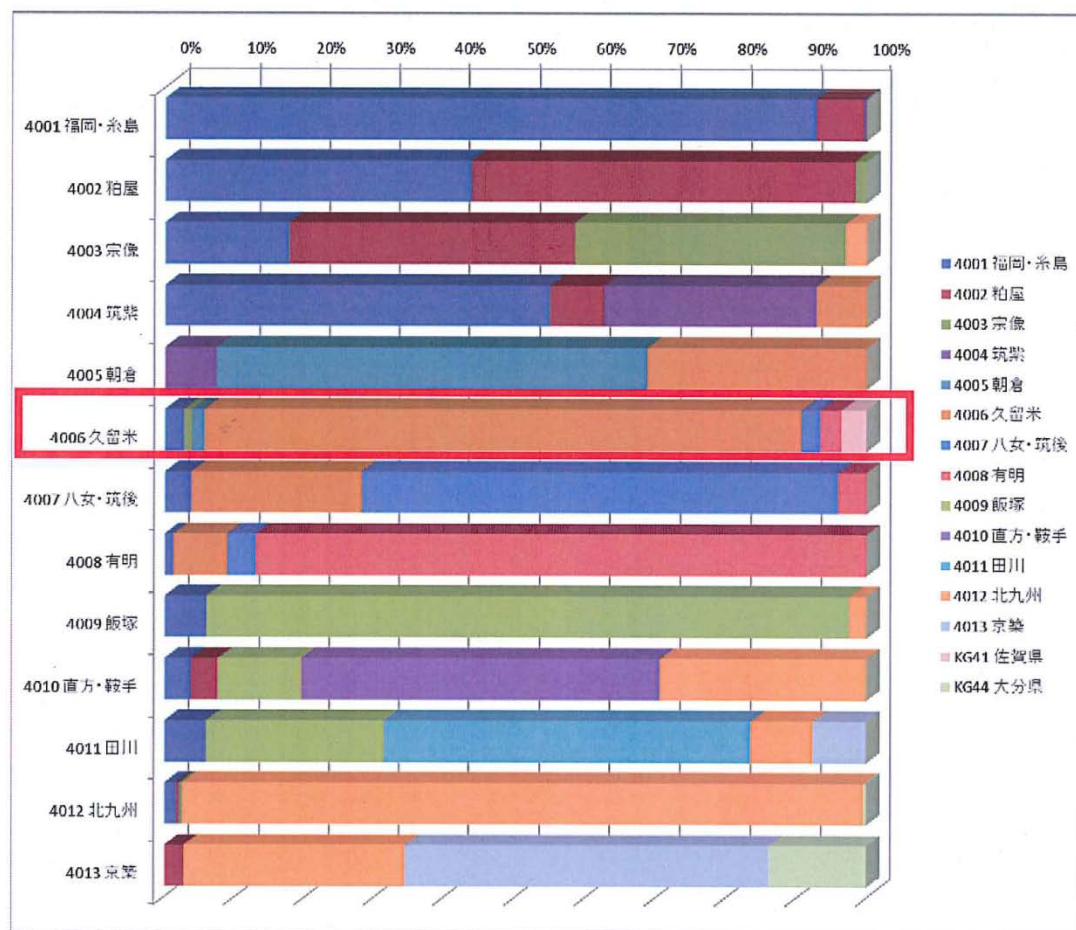
図VI-6 NDB 大腸がん入院の自己完結率

90%の大腸がんの患者が自地域の医療施設で入院している。残りは数%が福岡・糸島医療、八女・筑後医療圏、有明医療圏、佐賀県に入院している。また、筑紫医療圏の数%、朝倉医療圏の30%弱、八女・筑後医療圏の10%強、有明医療圏の数%の大腸がんの患者を受け入れており、流入がメインの地域と言える。



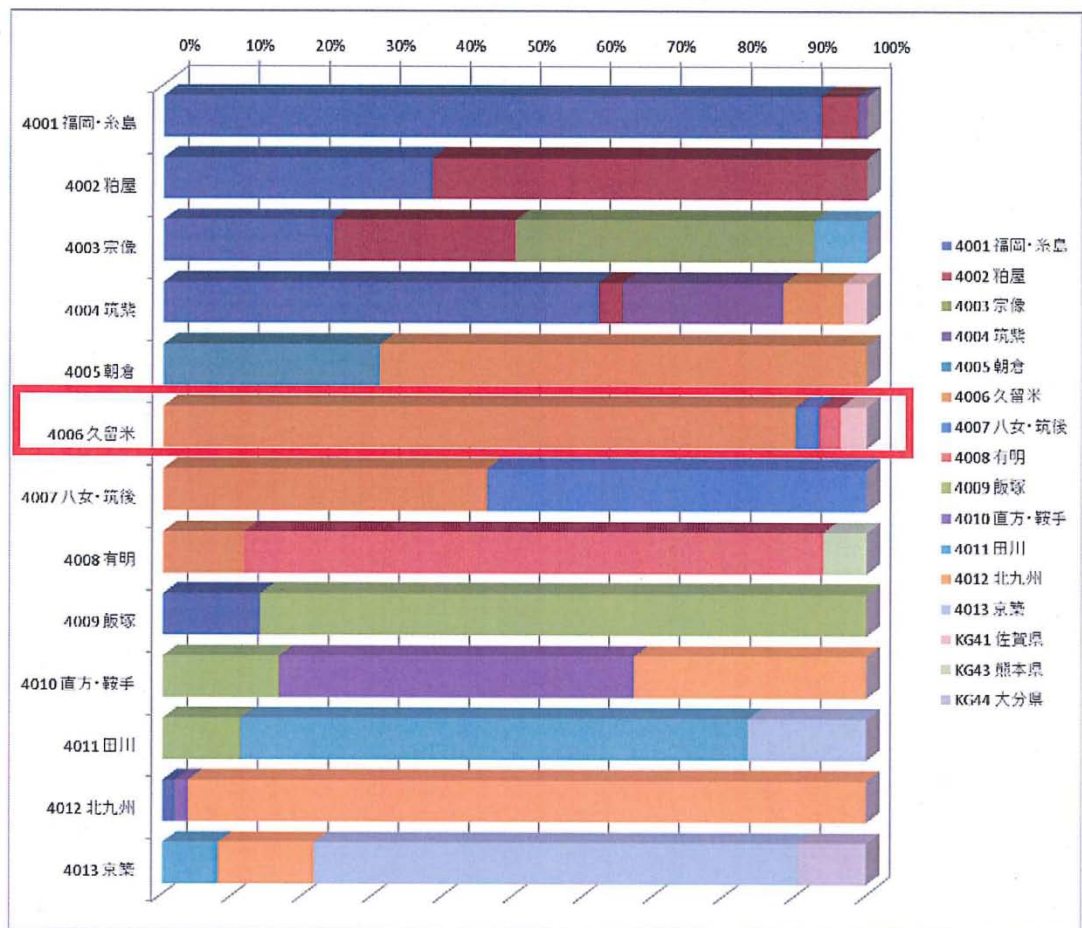
図VI-7 NDB 直腸がん入院の自己完結率

ほぼ 100%の直腸がんの患者が自地域の医療施設で入院している。数%が福岡・糸島医療へ入院している。また、筑紫医療圏の 10%弱、朝倉医療圏の 30%弱、八女・筑後医療圏の 30%強、有明医療圏の数%、京築医療圏の数%の患者を受け入れており、流入メインの地域と言える。



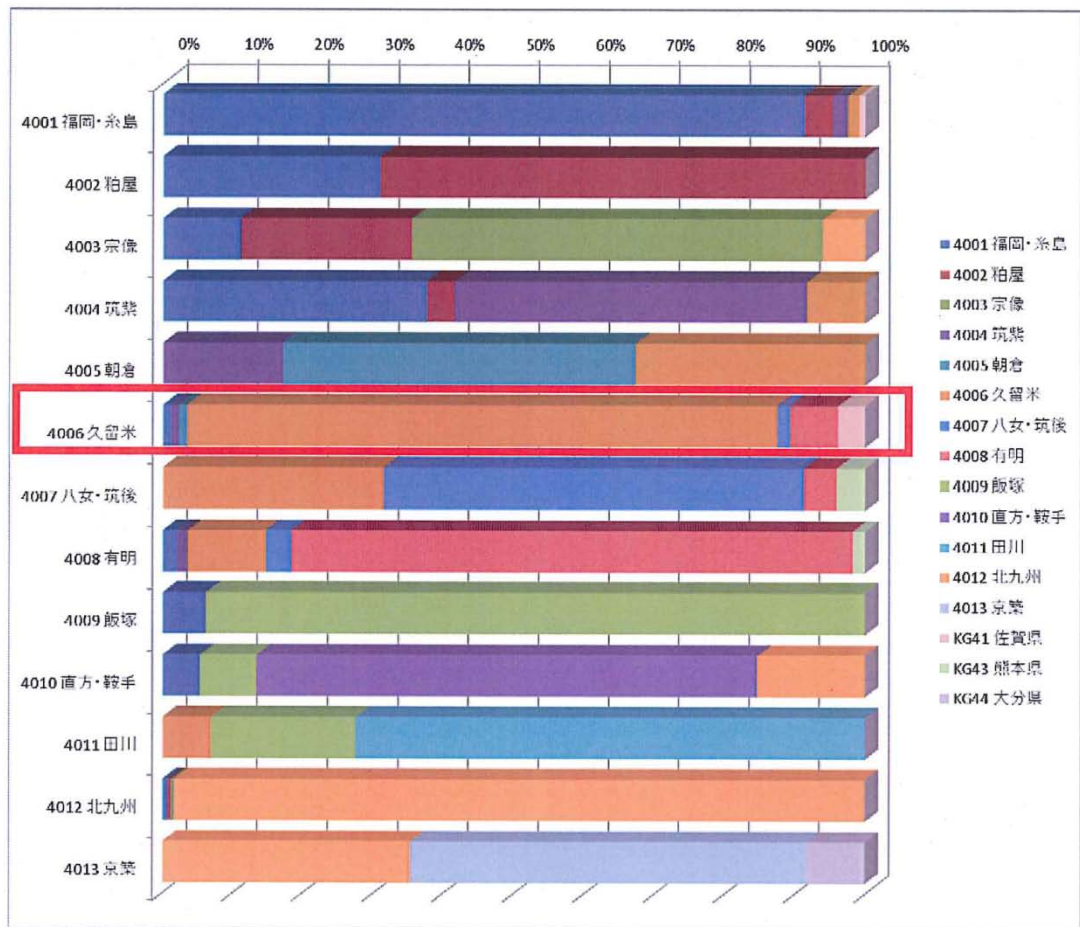
図VI-8 NDB 肺がん入院の自己完結率

80%の肺がん患者が自地域の医療施設で入院している。残りは数%が福岡・糸島医療、宗像医療圏、朝倉医療圏、八女・筑後医療圏、有明医療圏、佐賀県に入院している。筑紫医療圏の10%、朝倉医療圏の30%強、八女・筑後医療圏の20%強、有明医療圏の数%の患者を受け入れており、流入メインの地域と言える。



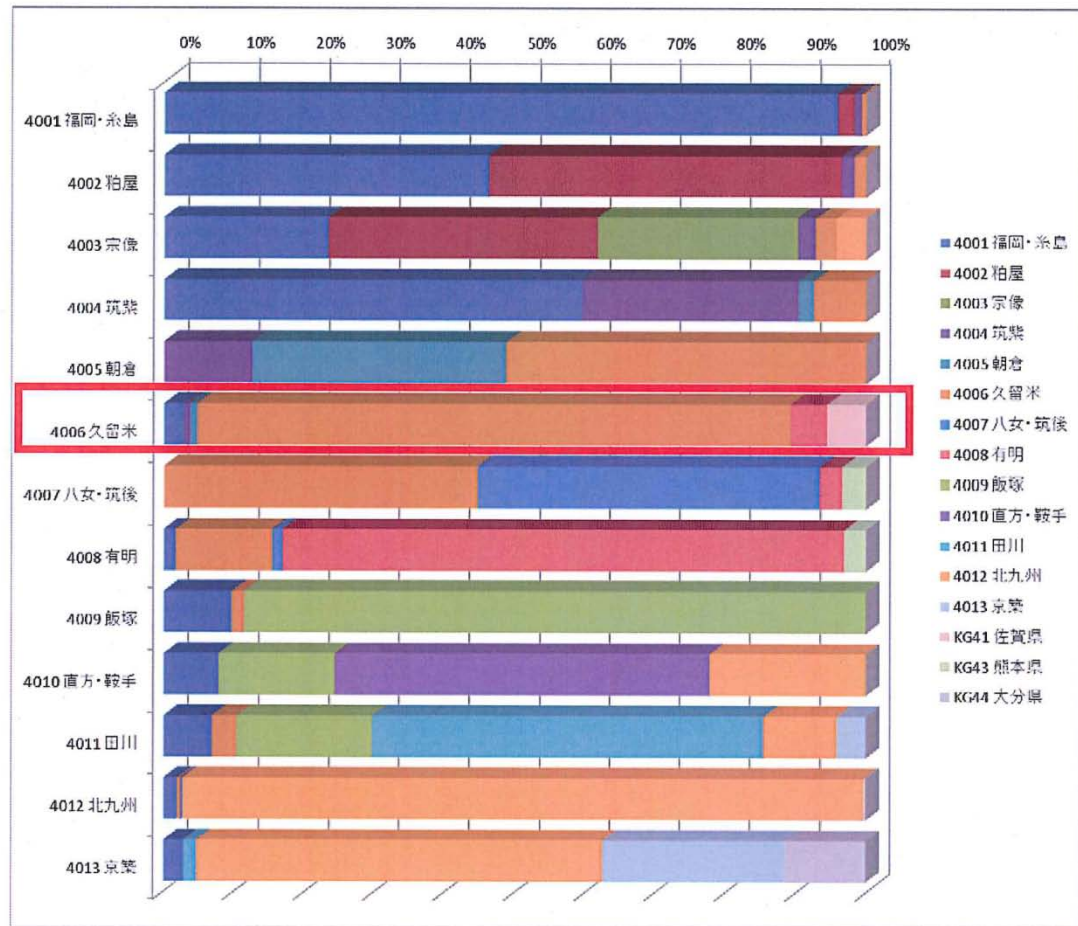
図VI-9 NDB 乳がん入院の自己完結率

90%弱の患者が自地域の医療施設に入院している。残りは数%が八女・筑後医療圏、有明医療圏、佐賀県に入院している。また、筑紫医療圏の10%弱、朝倉医療圏の70%強、八女・筑後医療圏の40%強、有明医療圏の10%弱の患者を受け入れており、流入メインの地域と言える。



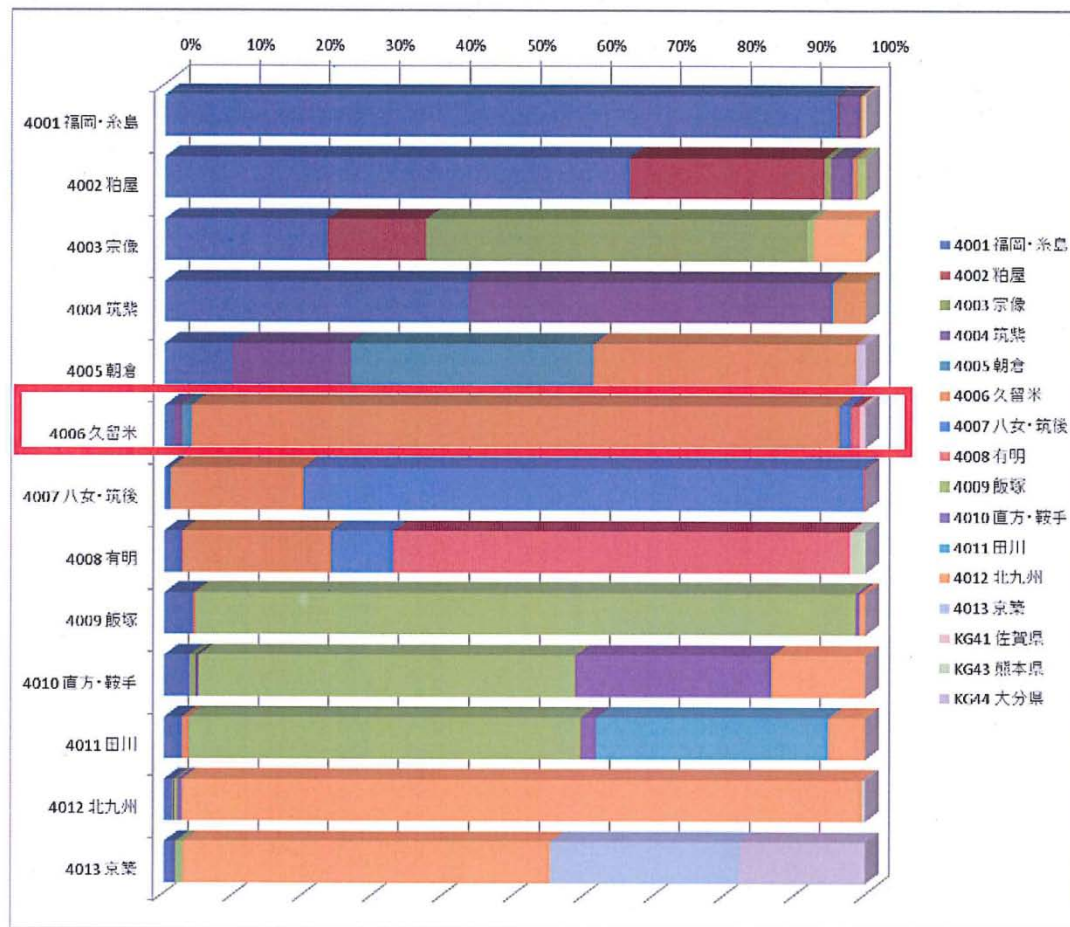
図VI-10 NDB 肝がん入院の自己完結率

80%強の肝がん患者が自地域の医療施設に入院している。残りは数%が福岡・糸島医療圏、糟屋医療圏、朝倉医療圏、八女・筑後医療圏、10%弱が有明医療圏、数%が佐賀県に入院している。筑紫医療圏の10%、朝倉医療圏の30%強、八女・筑後医療圏の30%弱、有明医療圏の10%弱、田川医療圏の数%の患者を受け入れており、流入メインの地域と言える。



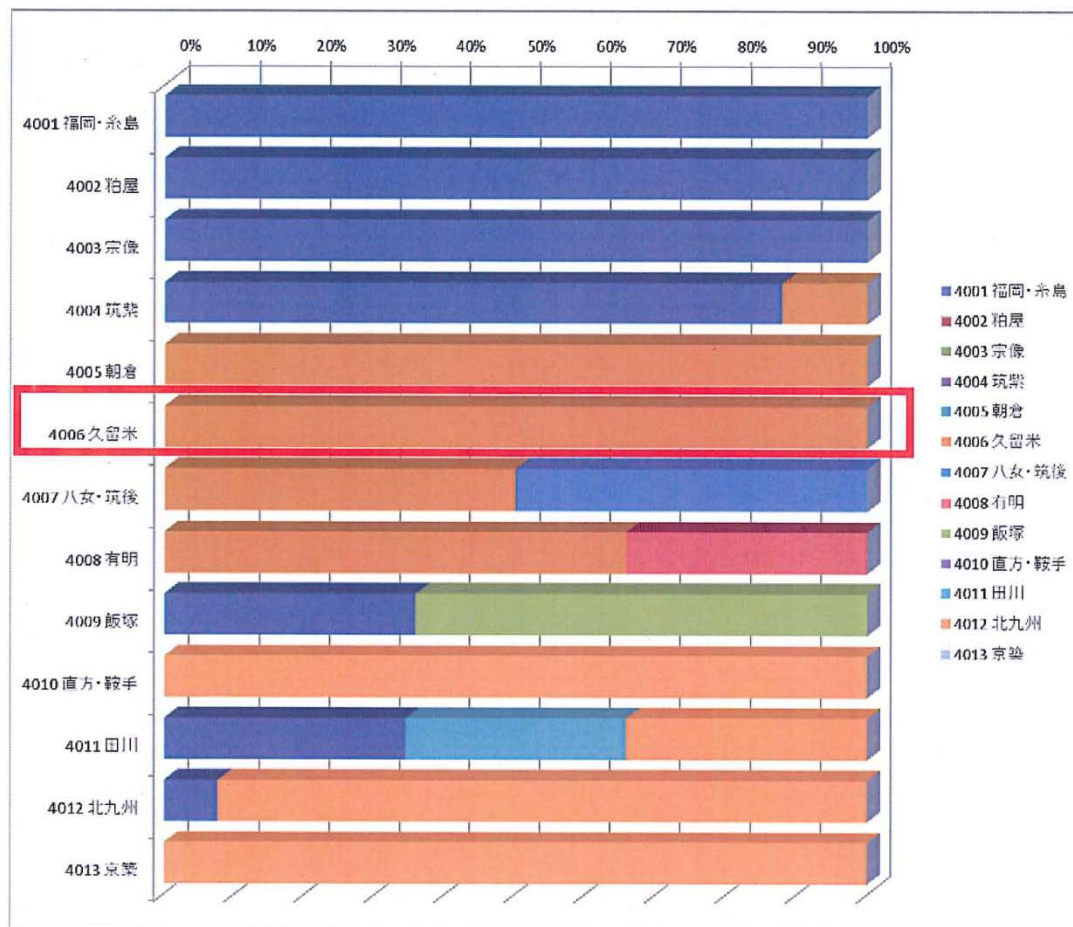
図VI-11 NDB 入院化学療法の自己完結率

80%強の化学療法の患者が自地域の医療施設に入院している。残りは数%が福岡・糸島医療圏、糟屋医療圏、朝倉医療圏、八女・筑後医療圏、10%弱が有明医療圏、数%が佐賀県入院している。福岡・糸島医療圏、糟屋医療圏、宗像医療圏、の数%、筑紫医療圏の10%、朝倉医療圏の50%強、八女・筑後医療圏の40%強、有明医療圏の10%強、飯塚医療圏、田川医療圏の数%の患者を受け入れており、流入メインの地域と言える。



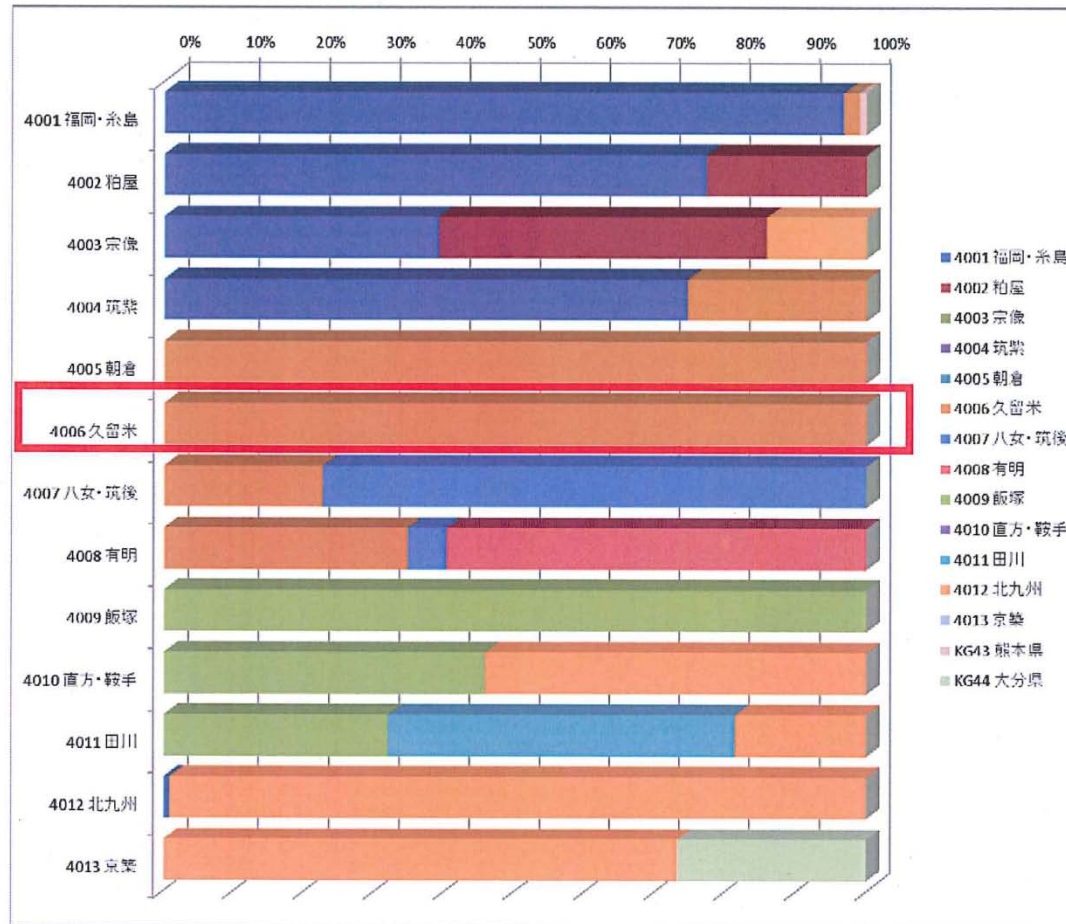
図VI-12 外来化学療法の自己完結率

外来化学療法の約90%の患者が自地域の医療施設で受診している。残りを数%が福岡・糸島医療圏、筑紫医療圏、朝倉医療圏、八女・筑後医療圏、有明医療圏、佐賀県で対応している。筑紫医療圏の10%弱、朝倉医療圏の40%弱、八女・筑後医療圏の20%弱、有明医療圏の20%弱の患者を受け入れており、流入メインの地域と言える。



図VI-13 入院放射線治療の自己完結率

100%の放射線治療の患者が自地域の医療施設に入院している。残りには入院している。筑紫医療圏の 20%弱、朝倉医療圏の 100%、八女・筑後医療圏の 50%弱、有明医療圏の 60%強患者を受け入れており、流入メインの地域と言える。



図VI-14 外来放射線治療の自己完結率

外来放射線治療の100%の患者が自地域の医療施設で受診している。に行っている。福岡・糸島医療圏の数%、筑紫医療圏の30%弱、朝倉医療圏の100%、八女・筑後医療圏の20%弱、有明医療圏の30%強の患者を受け入れており、流入メインの地域と言える。

久留米保健医療圏

【小郡三井医師会】

5疾病・5事業	特徴・問題点等
がん	久留米市に依存しているが、医療連携により概ね自己完結している。
脳卒中	久留米市に依存しているが、医療連携により概ね自己完結している。
心筋梗塞	久留米市に依存しているが、医療連携により概ね自己完結している。
糖尿病	一般入院及び外来共に自己完結率は高い。基本健康診査率はまだ50%以下である。
精神疾患	一般入院及び外来共に自己完結率は高いが、ある程度の県外(佐賀県)流出を認める。
救急医療	久留米市に依存しているが、医療連携により概ね自己完結している。小郡三井地区では嶋田病院神代病院で実施。嶋田病院が地域支援病院の認可を受け地域診療所との連携が可能となり速やかに救急医療に対応可能となっている。小児救急休日診療を小児専門医で1回/月実施している。
災害時における医療	災害時の消防機関や医療機関等の連携を迅速にとるために危機管理体制(災害、健康危機管理協議会を設けている)の整備している。
へき地の医療	小郡三井地区には無医地区はなし。
周産期医療	久留米市に依存しているが、医療連携により概ね自己完結している。
小児医療	久留米市に依存しているが、医療連携により概ね自己完結している。休日診療を小児専門医で1回/月実施している。
在宅医療	訪問診療、介護、ターミナルケアともにほぼ自己完結している。
全体的な問題点等	久留米市に依存しているところも多いが、概ね自己完結している。

項 目	現 状	課 題
1. 急性期入院医療全般	久留米市に依存しているが、医療連携により概ね自己完結している。	久留米市の依存を減少し出来るだけ自己完結できるよう努力する。
2. 救 急	久留米市に依存しているが、医療連携により概ね自己完結している。小郡三井地区では嶋田病院神代病院で実施。嶋田病院が地域支援病院の認可を受け地域診療所との連携が可能となり速やかに救急医療に対応可能となっている。小児救急休日診療を小児専門医で1回/月実施している。	夜間、休日救急医療にはまだまだ課題が多いが、自己完結できるよう努力する。
3. 周産期医療	久留米市に依存しているが、医療連携により概ね自己完結している。	久留米市の依存を減少し出来るだけ自己完結できるよう努力する。
4. 在宅医療	訪問診療、介護、ターミナルケアともにほぼ自己完結している。	訪問診療、介護、ターミナルケアにはまだまだ課題が多いが、自己完結できるよう努力する。
5. 連携	災害時の消防機関や医療機関等の連携を迅速にとるために危機管理体制(の整備している。また、病診連携、他職種連携についても研修会等を開催することにより強化を推進している。	災害時の連携、他職種連携にはまだまだ課題が多いが、より一層連携できるよう努力する。
6. 急性心筋梗塞	久留米市に依存しているが、医療連携により概ね自己完結している。	久留米市の依存を減少し出来るだけ自己完結できるよう努力する。
7. 脳血管障害	久留米市に依存しているが、医療連携により概ね自己完結している。	久留米市の依存を減少し出来るだけ自己完結できるよう努力する。
8. 悪性腫瘍	久留米市に依存しているが、医療連携により概ね自己完結している。	久留米市の依存を減少し出来るだけ自己完結できるよう努力する。
9. 糖尿病	一般入院及び外来共に自己完結率は高い。基本健康診査率はまだ50%以下である。	久留米市の依存を減少し出来るだけ自己完結できるよう努力する。
10. 精神科	一般入院及び外来共に自己完結率は高いが、ある程度の県外(佐賀県)流出を認める。	久留米市の依存を減少し出来るだけ自己完結できるよう努力する。